

# 病原微生物検出情報

## 1 腸管系病原細菌（平成15年1月～12月）

菌種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
チフス菌													0
サルモネラ	3	2	1	4	5	15	4	12	9	4	5	3	67
エルシニア						1		1					2
コレラ菌								1			1(1)		2(1)
腸炎ビブリオ						29	2	42	9	1			83
その他のビブリオ									1				1
エロモナス		1		1	2		1	1	3	2	3		14
プレジオモナス													0
カンピロバクター	4	15	16	9	28	27	47	21	16	20	17	8	228
黄色ブドウ球菌	60	65	55	40	60	49	73	53	37	59	54	47	652
ウェルシュ菌				11									11
ボツリヌス菌													0
セレウス菌													0
腸管出血性大腸菌		2	1	1	1		1	3		5		3	17
その他の大腸菌	48	68	84	65	51	64	54	50	40	39	30	40	633
赤痢菌	1(1)									1		1(1)	3(2)
合計	116(1)	153	157	131	147	185	182	184	115	131	110(1)	102(1)	1713(3)

( )内は海外旅行者からの分離菌株数(再掲)。

■は集団発生事例の分離株を含む。

### 解説

平成15年に県内10か所の病院、4か所の厚生センター、富山市保健所、衛生研究所で、便から分離された腸管系病原細菌についてお知らせします。表に示すように、分離株総数1,713株で前年比106%でした。最も多かったのは黄色ブドウ球菌で、前年比106%と増加しました。次に、大腸菌、カンピロバクターの順に多く分離されていました。大腸菌のうち腸管出血性大腸菌はO157が13株、O26が3株、OUTが1株で合計17株でした。カンピロバクターは集団食中毒が3件、腸炎ビブリオは集団食中毒が5件発生したため、それぞれ前年比135%、154%と増加しました。2類感染症では、赤痢菌が3株分離され、*S. boyddi*はインドネシア旅行歴のある患者、*S. sonnei*のうち1株は海外渡航歴のない患者、もう1株はパプアニューギニア旅行歴のある患者から分離されました。また、コレラ菌(O1 稲葉型)1株がタイ旅行歴のある患者から分離されました。本県では6年ぶりのコレラ菌患者の発生でした。

## 2. ウイルス（平成15年4月～平成16年3月）

臨床診断名	検出病原体	2003年								2004年			合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月
インフルエンザ 及び呼吸器疾患	(被検者数)	1									46	35	17	99
	A(H3)型インフルエンザ										35 <sup>3</sup>	19	12	66
	B型インフルエンザ	1												1
	未同定ウイルス									1				1
咽頭結膜熱	(被検者数)	1												1
感染性胃腸炎 <sup>1)</sup>	(被検者数)	3	9 <sup>2</sup>	4			11		24 <sup>2</sup>	29 <sup>2</sup>	13	11 <sup>2</sup>	11	115
	ノロウイルスG		2 <sup>2</sup>											2
	ノロウイルスG	1		4			9		6	14 <sup>2</sup>	11	2		47
	アデノ40/41												1	1
	A群ロタ										1	1	4	6
	ノロウイルスG + A群ロタ	1												1
	ノロウイルスG + C群ロタ		2											2
食中毒	(被検者数)		3	5 <sup>2</sup>	3	10 <sup>2</sup>					3	11 <sup>2</sup>	3 <sup>2</sup>	38
	ノロウイルスG										3	9 <sup>2</sup>	2 <sup>2</sup>	14
ウイルス性脳炎	(被検者数)									1				1
無菌性髄膜炎	(被検者数)				7	2			1					10
	エコー6型				4									4
	コクサッキーB3型				1									1
手足口病	(被検者数)		2	6	1									9
	エンテロ71型		1	2										3
	エンテロ71型+ポリオ2型		1											1
	コクサッキーA16型				1									1
発疹症	(被検者数)										1			1
麻疹	(被検者数)			3										3
	麻疹ウイルス			1										1
無症状	(被検者数)						10				56			66
<small>(ポリオ流行予測調査)</small>														
症例合計	(被検者数)	5	14	18	11	12	21	0	25	30	119	57	31	343
	病原体検出者数	3	6	7	6	0	9	0	6	14	51	31	19	152

\* 1 : 感染性胃腸炎には、冬季嘔吐下痢症、冬季下痢症を含む。

\* 2 : 無症状の施設関係者を含む。

\* 3 : PCRによる検出を含む。

■ は集団発生事例を含む。

### 解説

平成15年度(2003年4月～2004年3月)のウイルス検出状況についてお知らせします。インフルエンザおよび呼吸器疾患では、昨シーズン(2002/2003)終期の4月にインフルエンザB型が分離されました。今シーズン(2003/2004)は、1月からA香港型インフルエンザウイルスによるインフルエンザが流行し始め3月の下旬で終息しました。その間の富山県における集団発生数は20施設であり、昨シーズン(のべ34施設)より小さな規模の流行でした。感染性胃腸炎の患者からは主にノロウイルス Genogroup (G) が検出され、その他ノロウイルスG、アデノウイルス、A群ロタウイルス、C群ロタウイルスが検出されました。また、食中毒事例からもノロウイルスGが検出されています。無菌性髄膜炎では、エコーウイルス6型、コクサッキーウイルスB3型が分離されました。全国の無菌性髄膜炎患者からは、エコーウイルス30型、6型を主体に、エンテロウイルス71型を含む様々な種類のウイルスが分離されていました。手足口病では、エンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスA16型が分離されました。5月の1例では、エンテロウイルス71型とポリオウイルス2型が同時に分離されましたが、このポリオウイルスはワクチン由来株であり、ワクチン接種によるウイルスの排泄で、手足口病の発病に関連はないと推測されます。麻疹患者からは、麻疹ウイルス(H1型)が分離されました。韓国や中国の由来株であるH1型は、近年国内各地で分離されています。